

令和3年度あきた型学校評価シート

(秋田県立聴覚支援学校)

評価領域

学習指導

<p>重点目標</p>	<p>日本語の力、学力の向上を目指し、質の高い教育活動を推進する。</p>	<p>P</p>
<p>現 状</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年度まで、対話の形で言語活動を展開し、考えを深める研究に取り組んできたが、児童生徒自身は対話による学びの手応えを感じている割合が少なく、より深い学びにつなげることが課題である。 2 聴覚障害の程度の違いに加え、他の障害を併せ有する幼児児童生徒から就職・大学進学を目指す生徒までの幅広い実態に応じた、きめ細やかな指導や教育課程の編成が求められている。 3 ICT機器の活用に関しては、一部の職員が中心かつ限定的な場面での使用にとどまっており、学習への効果的な使用についての検討が十分なされているとはいえない。 	
<p>具体的な目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究における取組を中心に、「育てたい力」を明確にし、個別の指導計画等に反映させ、深い学びにつなげる。学校評価において「日本語の力や基礎学力の向上」及び「キャリア教育・生徒指導」の全体平均を3.2以上にする。 2 ICT機器の活用推進に当たっては、学習活動において「育てたい力」につながる効果的な活用について実践を積み重ねる。学校評価の「ICT機器の活用」「学習環境の整備」の平均を3.1以上にする。 	
<p>目標達成のための方策</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1—①研究における取組を中心に、「育てたい力」を明確にし、個別の指導計画等に反映させ、深い学びにつなげる授業実践を積み重ねる。幼稚部から高等部まで発達段階を踏まえ、ねらいや指導内容の関連性・系統性を全校職員で確認する。 1—②全校進路研修会で卒業後の姿をイメージし、各年齢で必要な事項を学部を超えて協議し、学部間の共通理解と連携を図る。 2 ICT機器の活用推進に当たっては、学習活動への積極的な導入を進めるとともに、「育てたい力」につながる効果的な活用について実践を蓄積し、検証する。 	
<p>具体的な取組状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 チームで「育てたい力」を確認し、対話の工夫や授業の振り返り、まとめの充実を授業実践を積み重ねた。研究会及び進路研修会では、幼稚部から高等部までの長期的な育ちの見通しの上に、発達段階を踏まえ、ねらいや指導内容の関連性・系統性を全校職員で確認した。 2 図書情報部が機器の操作の研修会を5回実施した。また職員一人 	<p>D</p>

	一人がICTを活用した授業実践を行い、個々の記録を積み上げ、12月には公開研究会で、授業公開やパネル発表を実施した。	
達成状況	<p>1 設定した育てたい力を各学部で記録や生徒自身の評価等から分析し、対話の工夫や振り返りを重視した授業実践で深い学びに迫ることができた。</p> <p>2 ICT機器を学習活動に取り入れ、幼児児童生徒が直接触れる機会を積極的に創出した。機器を使う目的や効果的な方法についても、考えを深めることができた。</p>	



自己評価	<p>(評価) B</p> <p>(根拠)</p> <p>1 学校評価における「日本語の力や基礎学力の向上」及び「キャリア教育・生徒指導」の全体平均は3.20であった。学部を超え、卒業後を見据えた支援の在り方について共通理解はできたものの、日常的な指導における意識化及び日本語の力や基礎学力の定着は十分とは言えない。</p> <p>2 学校評価における「ICT機器の活用」「学習環境の整備」の全体平均は3.19であった。目的を意識した活用の工夫や実践の拡充が課題である。</p>	C
------	---	---

↑ 評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者 評価と意見	<p>(評価) B</p> <p>(意見)</p> <p>「日本語の力の向上に加え、実践的な場面を設定し学ぶ方法もあるのではないか。」「長いスパンから各段階で必要とされる指導・支援の方向性を考え、学校全体で共通の課題意識をもてる機会を継続してほしい。」「対人的な関わりを拡大させ、深めていくことが、社会性を育む上で有効ではないか。」「交流学习やオンラインの活用等、工夫して協働的な学びを充実させてほしい。」という意見が出された。</p>	C
----------------	--	---



自己評価及び 学校関係者評価 に基づいた 改善策	<p>1 一人一人のニーズに応じた質の高い教育の実現のため、研究・学習会・互見授業の活用、日常的な情報交換の活性化を通して、聴覚障害教育に関する専門性及び指導力の向上を図る。</p> <p>2 教育活動全体を通して、自立活動の視点を取り入れ、幼児児童生徒の自己理解を育み、さらに他者との関わりについて実践的に学びを深めることができるようにする。</p> <p>3 ICT機器の活用をより一層推進し、情報活用能力を高めるとともに、学びを深め、協働的な学びにつながる実践を積み上げる。</p>	A
-----------------------------------	--	---